養鶏を創めて40年　10億円農業への挑戦
～ブランド「やまがた最上どり」の確立に向けて～

株式会社アイオイ
代表取締役　五十嵐　忠一（鮭川村）

１　受賞者の概要

全自動ウインドレスシステムの鶏舎で、コンピュータ制御による効率的な飼養管理と経営管理を行い、県内で最大規模、南東北でトップクラス規模のブロイラー経営を実践している（年間出荷羽数　90 万羽）。

２　活動内容

(1) 飼料用米の活用

地域資源を活用して飼料自給率の向上とコスト削減を図るため、飼料用米の給餌を行っている。現在、庄内地域、最上地域から飼料用米を確保し、購入飼料に約20%（3週齢以上）混合して給餌している。

(2) 環境にやさしい飼養管理と耕畜連携・循環型農業を実践

鶏糞を燃やす時に発生する熱を温水にして鶏舎の床暖房に活用する「鶏糞温水ボイラー」を導入し、重油の使用量を約 70%削減している。また、鶏糞の焼却灰を特殊肥料として製造し、これを飼料用米生産農家に供給して耕畜連携・循環型農業を確立している。

(3) 安心安全の追及

平成２８年１２月に「農場 HACCP 推進農場」の指定を受けた。その後、独自の衛生管理プログラムや必須管理点を定めて取組を進め、年内に「農場 HACCP 認証」を取得する予定である。

また、鳥インフルエンザ等伝染病の発生を防ぐため、出入り車両の消毒、踏込消毒槽の設置、鶏舎周りの整理整頓等予防対策を行うとともに、防疫演習を実施するなど、疾病予防に万全の対策をとっている。

(4) ６次産業化への取組み

消費者に自社の鶏肉の美味しさを直接届けたいという想いから、「やまがた最上どりカルパス」と「やまがた最上どりスモーク」を委託製造し、村のふるさと納税返礼品等として提供している。

３　今後の発展方向

平成３０年度に、さらに規模拡大を行うとともに、鶏肉加工・販売施設を設置し自社で一次加工品の製造及び正肉・加工品の販売を行い、売上高10億円を目指す。

また、飼料用米の給餌30%を目指し、他地域も含めて300ha・1,800tの確保を目標に、耕畜連携・循環型農業のＰＲ・推進活動を行っていく。

さらに、山形大学農学部と連携して鶏肉の栄養成分の理化学分析を進め、飼料用米を給餌した「やまがた最上どり」を銘柄鶏として確立していく。